

『困難に見舞われる時』こんばんは。 週半ば、木曜日夜の聖書の学びへようこそ。通常は聖書を節ごとに読んで行きますが、今夜はそれはしません。今夜は主が私たちを別の方向に 導いておられる気がします。私たちは、主の御心であれば、 聖書の学びを再開する予定でいます。私たちは「箴言」の学びを終えました。繰り返しますが、主の御心ならば、「伝道者の書」に入ります。でも、今夜私がお話したいのは、神が私たちに人生の試練や困難を経験させるのは 何故なのか、その目的は何かについてです。私は困難に見舞われる時のことについて お話したいと思います。私は、今、本当に辛い思いをして、苦悩している人々がいらっしやることを 確かに承知しています。非常に困難になって来ていて、物事が向かっている軌道を見ると、 さらに困難になる可能性が高いようです。間違いなく、ニュースは日を追うごとに ますます悪化しています。私は、以前は消音にしていたんですが、今はもう画面も消してしまいます。とにかく、もう...悪いニュース、悪いニュース、悪いニュースで...主がこう言われているような感じです。「わたしには良い知らせがある。」それで、今夜私がやりたいのは、 ただ、皆さんを励ます事です。特に、本当に苦悩している方々、今夜あなたがここにいらっしやっても、 オンラインでご覧になっていても、 あなたは本当につらい思いをされています。私は、ただ、長年にわたって 主が私を励まして下さったものによって、 皆さんを励ましたいのです。今夜は、とにかく、心から、非常に困難で暗い時期における 私自身の主との経験から、主が、いつもとても忠実であられるように、私にいくつかのものすごく困難で辛い状況を いかに通り返させて下さったか... それらの状況は本当に不可能なものでしたが、神だけがお出来になるように、 神が不可能な事を成し遂げられたのは、 その様な時でした。だから、私は今夜、皆さんにそのお話しをしたいと思います。私は7つの理由を挙げます。それは意図的なものではありません。「7」が完全数であるのは承知していますが、これはクリスチャンの人生における 困難、試練、苦悩に関して、 余す所なく網羅するものではありません。今夜の教えの前置きとして 皆さんに覚えておいて頂きたいのですが、非常に大事な事ですから、 聞き逃さないで下さい。なぜなら、これを聞き逃したり、 理解しなかったりすると... えー...何と言いましょか。あなたは、あなたの事を想像もつかないくらい 愛しておられる愛に満ちた神の心を 誤解する事になるからです。今日私は、本土にいるある牧師と話をしていました。彼は私の良き友でもあります。彼は、私がこれまで一度も考えた事のなかった事、 結び付けて考えたことのなかった事を言いました。ヨブに関する事です。 私たちも「ヨブ記」の学びをしましたね。すごい書です。 すごい試練です。「ヨブ記」を学び通すこと自体が試練でした。私たちは「ヨブ記」に一年以上費やしたと思います。すごい学び...すごい書...すごい人です。彼は、私が考えたこともなかった 面白い考えを持ち出しました。それは、ヨブが初めの頃に 言った事に関連するものです。あらゆる事が起こり始めて、 ヨブに対してサタンが基本的に何でもすることを許された頃です。「神よ。ヨブがあなたに仕え、 あなたの前にとっても潔白で、そんなに正しい理由は、 ただ一つ、だって、ほら、あなたは彼をこんなに祝福してる。 当然でしょう。」「彼に手を出すことをあなたが許してくれたら、 彼は面と向かってあなたを呪いますよ。」すると神は... 「いいだろう。よし、決まりだ。」話の続きはご存知ですね。しかし、ヨブの言ったこの一言が、 すごく核心を表しているんです。彼は言います。

「私の最も恐れたものが、私を襲い...」(ヨブ記 3:25)

こういう考えです。ヨブは非常に正しく、非常に潔白で、非常に高潔ではありましたが、それでもまだ、彼の内には、神が彼から取り去りたいと望まれる部分があったのです。それは、次のような考えで、彼は心の奥底で、神が彼の身に何かが起こるのを許されるのではないかと恐れていたのです。「私の最も恐れたものが、私を襲い…」それは彼の心の内を非常によく表しています。そこから分かるのは、ヨブの心の中には、実際、臆病の霊があったという事です。ここに問題があります。神は私たちに臆病の霊を与えてはおりません。(2テモテ 1:7) では、神はその怖れをどのように扱われるでしょうか? 神に関して、ヨブが抱いていたあの不必要で正当な根拠のない怖れを。神はそれが起こるのを許されます。そして、それにも関わらず、ご自分が忠実(真実)である事をお示しになります。そして、彼にそれを乗り越えさせます。それは、最終的に、ヨブが神を呪わないだけでなく、彼が神をほめたたえるためです。皆さんもその話の結末をご存知ですが、私はそれを結び付けて考えたことがなかったんです。ですから、私たちは「ヨブ記」をもう一度最初っから学び直すことにします。冗談です。私がこの話をした理由は、私たち全員は内側に、この怖れを抱いているからです。どういうわけか、神が乗り越えさせてくれない、と。私たちにはこの暗黙の怖れがあります。それは正当な根拠のないものですが、それでもなお、暗黙の怖れがあるんです。次のように言ったのはオズワルド・チェンバーズだったと思います。私たちの心の中には、次のような思いがあるんです。私たちは、どうかして、神を弁護しなければならぬと思うのです。どういうわけか、神は現われることがなく、ご自分が忠実であることをお示しにならない、と。神は乗り越えさせてくれない、と。それがヨブの怖れだったわけです。そこで神は、何と云うか、もっと良い言い方がないのですが、一石二鳥にされるんです。神はヨブを証明し、ヨブを清めておられ、ヨブの内側にあるこの問題、この怖れを取り扱われながら、同時に、ご自分がどういうお方か、そして、悪魔がどういう者でないかを示しておられます。それについて説明します。

悪魔は神の悪魔であることを理解することが重要です。悪魔は造られた存在であり、神と対等ではありません。悪魔は全知ではなく、神のように全てを知ってはいません。悪魔は神のように遍在せず、遍在することは出来ません。そして悪魔は、絶対に、神のように全能、全権ではありません。悪魔は神によって制限されていて、神がお許しになる事しかすることが出来ません。そして、これが重要な事です。神は、悪魔が私たちに対して何をする事も許されません。それが最終的に神の栄光となり、私たちの益となるものでなければ。それが神に栄光を帰さず、私たちの益となるものでないなら、サタンは私たちに何をする事も出来ません。それを理解するのが重要なのは、もし、あなたがそれを信じず、それを理解せず、それを知らないなら、あなたは、人生の試練のただ中にある時、神のいつくしみと、神が本質的にどういうお方であるかを疑い始めてしまうからです。なお、それが究極的にはサタンの唯一の目標なのです。日の下には新しいものは一つもありません。(伝道者 1:9 参照)

これはサタンがエデンの園でやった事です。サタンはエバを騙して、神は信頼の出来ない方だと信じ込ませました。神が彼らに隠し事をしている、と。神は彼らに良いものを与えていない、と。それは、この疑いの種を植え付けることでした。神のいつくしみと、愛と、ご人格について。もしサタンがあなたに影響を与えて、あなたにそのように考えさせ始められたら、あなたはサタンの思うツボです。それで急に、あなたは試練の真ただ中で… 逆境が訪れて、あなたはこういう反応をします。それは、あなたが偽りの父から来るこの偽りを受け入れたという明確なしるしです。あなたの反応は次のようなものになります。「神よ。あなたはなぜ私にこんな仕打ちをしているんですか?」それは間違った質問です。間違った質問に正しく答えることは出来ません。「神よ。なぜ私にこんな仕打ちをされるのですか?」とい

うのではなく、問うべきは、次のことです。「神よ。あなたは私に何を示そうとしておられるのですか？」あなたはその主権と、恵みと、憐みの中で、私にこの事が起こるのを許されました。それには理由があるはずですが。主よ、その理由は何ですか？ この事の目的は何ですか？ この事の中で、あなたが私に見せたいと望まれることは何ですか？ あなたがこの事から私に学ばせたい事は 何ですか？ なぜなら、あなたがこの事が私の身に起こるのを お許しになったのには、他に説明がないからです。明らかに、あなたは私の内で何かをなさっています。もしかしたら、あなたが将来に 私を通してなさりたい働きかもしれません。神はあなたの内側でその働きをなさるまで、あなたを通してその働きをすることは出来ない と言われていていますから。私たちはまだ未完成の者ですよ？ 私たちは神の作品です。（エペソ 2:10 参照）新約聖書原語のギリシャ語では、それは面白い言葉です。その言葉は、英語のポエムの語源です。「ポイマ」芸術品です。神は私たちを作っておられ、 私たちの形を整えておられます。私たちは神の作品です。最高の作品です。そして、ご存知のように、 芸術家は作品が仕上がると、その作品に、自分の名前を入れて 所有を示します。それが、神が私たちの人生にしておられる事です。言ってみれば、神は、ご自分の作品、芸術作品として、 私たちにご自分の名前を記しておられます。では、詳しく見て行く前に、 もう一度、述べておきたいと思えます。断固として、絶対に、決して、 敵があなたを騙すのを許し、 こう信じてはなりません。逆境が訪れて、つらい経験をする時、神があなたに腹を立てていると。たとえ神があなたを懲らしめておられる時でも...そして神は時にそうされるのですが、神がそうしておられるのは、あなたを愛しているからです。ヘブル人への手紙の筆者は言います。たしかに、あなたはイヤでしょう。 叱責されたり、懲らしめられたりしたい人が どこにいるでしょう？ でも、あなたはそれによって、自分が神の子であることを知るので。神はあなたを訓練しておられるから。あなたは他人の子を懲らしめることはない という発想です。ちょっと考えてみて下さい。あなたは自分の子どもだけを懲らしめます。なぜか？ 彼らはあなたの子どもだからです。ですから、神はそうされるのです。しかし、神がそうされるのは、 私たちのことを とても愛しておられるからです。ですから、たとえそれが懲らしめだとしても、 それは神があなたを愛しておられるからです。そして神は、あなたに何かが起こるのを 決してお許しになりません。それがあなたにとって益であり、最終的にご自分に栄光をもたらすものでないならば。では、一つ目に入りましょう。神が逆境や困難をお許しになる一つ目の理由は、それは、神が私の注意を引こうとして おられるからかもしれません。伝道者の書 7 章 14 節は長年にわたって、神が私の人生で用いられてきた句で、私に何度か、本当に辛い時期を乗り越えさせてくれました。ソロモンが書いた事に耳を傾けてください。（ほら！結局伝道者の書に入りましたよ！）ソロモンはこう言います。「順境の日には喜び、」別の訳では、こう言っています。順境の日、繁栄の時には、 楽しみ。弁解することはない。 主をほめたたえましょう！ 私の人生は今うまく行ってる。 主をほめたたえます！「だが、」 う〜っ この言葉、イヤですね。 その続きが分かりますから。直観的に分かります。順境の日には喜び、いいですか？用意して...だが！これがこんな確定的な言い方じゃなくて、「もし」とか「ひょっとして」 だったらいいの と思います。でも、仮定的には書かれていません。「逆境の日には反省せよ(こう考えよ)。」止まって、考えなさい。 神はあなたの注意を引きました。「これもあれも神のなさること。...それは後の事を 人にわからせないためである。」私の話を聞いて下さい。神は順境を許され、逆境もまた許されます。神は両方とも許されます。両者並行して。何故かと言うと、逆境にある時、その時こそが、 私たちが止まって考える時だからです。順境の時ではありません。事実、私は、クリスチャンの人生の中で、順境の時には、もっと危険があると言いましょ。迷い出し、はぐ

れる危険が。私たちが主にもっと近づくのは、逆境の時です。何故かと言うと、神は私たちの注意を引かれたからです。それは、私たちの祈りに現われませんか？物事がうまく行っている時には、私たちの祈りは短くて、大まかで、「主よ、感謝します。これを祝福し、あれを祝福して下さい。」それで終わりです。でも、逆境に襲われたら、「ああ！神よ！愛に満ちた…」本当に、突然、私たちの祈りが効

果的になって、私たちはひれ伏して…その事について、神がどうお感じになるか 想像できますか？

「ああ。やっとなあなたの注意を引けたようだね。」皆さんは気づいたことがあるでしょうか？私は長年にわたって分かってきたんですが、時に神は、たとえこの理由のためだけでも、困難と逆境を許されます。私が神に語り掛けるようになるためだけに。まるで神が、私がないのを寂しく思われるような感じでした。皆さんも、親として、どんな感じが分かりますよね。子どもから電話がかかって来るのは、何か必要がある時だけ。だから、考えてみて下さい。これは…私はこんな考え方をします。これには臨床名があるはずですが…神は、私から連絡を受けるのは、私が何かを必要としている時だけなのを知っておられます。では、どうなるでしょう？神は私に何かが必要になるように 私の人生の状況を整えられます。私が神を呼び求めるように。「ああ、声が聞けて嬉しいよ。」「久しぶりに話せるね。」

「さあ、あなたの注目を得たから、話し合おう。話があるんだ。」「これであなたはわたしに目を向け、わたしを呼び求め、わたしに頼るだろう。」興味深いことに、それは、私たちが考えて、保証がないことを悟るのを神が望んでおられるからです。順境の時に限って言えば、繁栄している時には、私たちはこう思いがちです。「この先ずっとこの調子だぞ。」状況はあっという間に変わり得ます。そして、そうなることが多々あります。ちなみに、逆もまた然りです。逆境にある時には、私たちがこう考える傾向がよくあります。「やれやれ、もうずっとこのままだ。」いいえ、違います。神は私たちを不安にさせておこうと しているのではありません。そんな風には考えないで下さい。神は私たちの注意を引きたいと 望んでおられるのです。私たちが、この人生には 確かなものが何もないことに気づくように。私たちが神に目を向け、神に頼らねばならないことに気づくように。これについては、この後でもっとお話しします。ですが、神が私たちの注意を引いていなければ、他にどうやって私たちの人生に語り掛けられるのでしょうか？そして、神が私たちの注目を一身に集めるのが逆境によってのみだとしたら、さあ、どうなるでしょう？逆境が訪れます。私たちが止まって、考え、神がこの事を許されたことに気づくために。神は私の注意を引かれた。何をお示しになりたいのですか？ここで私に何を見せたいのですか？ここで私に何を発見させたいのですか？二つ目は、面白いものです。神はもしかしたら、実際は、あなたをもっと大きな試練から守っておられるのかもしれませんが。マタイの福音書 14 章 22-32 節私たちがイスラエルに行くといつも、ご一緒した皆さんもいますが、イスラエル旅行のハイライトの一つは ガリラヤ湖で船に乗ることです。ああ、もう、ただ、とにかく壮大です。その度に、私は理由があって、いつもマタイ 14 章の話をして。彼らがガリラヤ湖の真ん中で遭遇した 良く知られた嵐の話です。22 節にこう書いてあります。一番初めの語に注目して下さい。「それからすぐ」私たちはその表現をあと 2 回、全部で 3 回見るようになります。

マタイの福音書 14 章

22 それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗り込ませて、自分より先に向こう岸へ行かせ、その間に群衆を帰してしまわれた。

この後、これについてお話しします。

23 群衆を帰したあとで、祈るために、ひとりで山に登られた。夕方になったが、まだそこに、ひとりで

おられた。

24 しかし、舟は、陸から もう何キロメートルも離れていたが、風が向かい風なので、波に悩まされていた。

25 すると、夜中の三時ごろ、イエスは湖の上を歩いて、彼らのところに行かれた。

26 弟子たちは、イエスが湖の上を 歩いておられるのを見て、『あれは幽霊だ』と言って、おびえてしまい、恐ろしさのあまり、叫び声を上げた。

私は彼らが泣き叫んでいたような印象を受けます。悲鳴をあげて。27 節、

27 「しかし、イエスは”すぐに”彼らに話しかけ、『しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない』と言われた。

28 すると、ペテロが答えて言った。『主よ。もしあなたでしたら...』」

私はペテロが大好きです。大、大、大好きです。

「『...私に、水の上を歩いてここまで来い、とお命じになってください。』

29 イエスは『来なさい』と言われた。そこで、ペテロは舟から出て、水の上を歩いてイエスのほうに行った。

30 ところが、風を見て、こわくなり、沈みかけたので叫び出し、『主よ。助けてください』と言った。」私はそれが大好きです。それは、神が3語の祈りに答えられることを示し、安心させてくれるからです。主よ。助けて ください。考えてみたら、 それくらいの時間しかなかったんです。もし長い祈りをしたら、「天のお父様、ブクブク...」お分かりですね。皆さんも間違いなく、この箇所について 色んな説教を聞かれたことでしょう。学ぶべき人生の教訓が本当にたくさんあります。

しかし、31 節で、私たちは再びこの言葉を見ます。

すぐに

31 そこで、イエスはすぐに手を伸ばして、彼をつかんで言われた。『信仰の薄い人だな。なぜ疑うのか。』」ここでもまた、イエスの声音に 軽蔑の色が混じっていたとは 絶対に思わないでください。弟子たちにきつい口調で「信仰の薄い人だな」と言われたとは。私が思うに、それはただ... 「あなたの神はとっても大きいのに、 あなたの信仰は何故そんなに薄いのか？」「なぜ、このわたしを疑ったのか？」「なぜ... あなたはわたしがあなたを 乗り越えさせないとでも思ったのか？」「あなたがたを嵐の中に送り出したのは このわたしなのだ。」ええ、そうですね。 そうなさいましたね。あなたは承知の上で私たちを この嵐の真ただ中に送り込まれました。故意にされたんですね。そうでしょう？ 「そうだ。」なぜ？ 「ああ、今に分かるよ。」ここから学ぶことの出来る たくさんの教訓の中の一つに、次の事があります。あなたが人生の試練の中にある時、 あなたの人生の状況を 絶対に次のように誤解してはいけません。私は私の人生のための神の御心から 外れているに違いない。ここで弟子たちは、彼らの人生最強の嵐の真ただ中にいます。それでいて、彼らは神の御心のど真ん中にいるのです。「ああ、大変だ。何もかも私に敵対している」とは 絶対に思わないで下さい。ヤコブのことを考えてみて下さい。何もかもがあなたに敵対しているように 思えるかもしれませんが、神があなたの味方であるなら、何事も、また何者も あなたに敵対することは出来ません。(ローマ 8:31 参照)

「私は神の御心から外れているに違いない。 神は私に腹を立てているに違いない。」 違います。神はあなたに腹を立ててはおられません。神はご自分のすべての怒りを ご自分のひとり子の上に注がれたのです。あの十字架の上で。神はあなたと私をととても愛されたからです。 神はあなたに腹を立ててはおられ

ません。非難も、罪悪感も、怒りも、天罰もありません。では、あなたが私に腹を立てていなくて、これが私のためのあなたの御心ならば、どうして、あなたはこの事が私の身に起こるのを許しておられるのですか？ 32 節では、「二人が舟に乗り移ると、風がやんだ」と書かれています。はい。ここは教えるのに良い機会です。では、主よ。どういうことですか？ では、私たちが主と遠慮なく率直に話し合えるとしましょう。「どうしてそんなに急いでおられたんですか？」「どうしてそんなに急いで 私たちをこの舟に乗せられたんですか？」「嵐に会うと知っておられながら。向こう岸へ渡らせるために。」なお、ネタバレですが、彼らは向こう岸に無事に到着しました。一番良い言い方でないのは分かっていますが、私が次のように言う意味を皆さんは理解して下さいと思います。あなたがどんな事を経験してしようと関係ありません。本当は私は気にかけていますが、私が何を言いたいかと言うと、それがどんなに辛くて、どんなに悪い状況に見えても、関係ありません。神はあなたに乗り越えさせて下さいます。私が請け合います！神の御言葉の権威と神の愛において、あなたはそれを乗り越えます。神が最後まであなたを助けて、切り抜けさせて下さるから。あなたはそれを乗り越えます！神があなたを沈ませると思うのですか？彼はペテロを沈ませませんでした。...と言うのも...考えても見て下さい。これがどれほど馬鹿げているか。神は、そのひとり子をも惜しまれず、あなたの代わりに死ぬためにご自分の御子を与えられました。神があなたのためにしない事などあるでしょうか？想像できますか？神が、あなたの人生のこの時点で…あなたが人生で最も辛い試練にあっていいる時に、神がこう言われると？「よし、ここまで助けてやったから、あとはお前次第だ。自分で何とかしなさい。」神がそんな事をされるとおもいますか？いいえ！神にそうする事は出来ません。それは神の本質ではありません。そう「しない」のではなくて、そう「出来ない」のです。それは、愛に満ちた神のご人格とご性質に一致しません。神は私たちをととも愛しておられます。では、主よ。これはどういう事なんですか？「あのね、わたしはあなたがたを舟に乗せる必要があったのだ。」そうですか。でも、どうしてあんなに急いで？「わたしたちはちょうど、2万人とも信じられている数の人たちに食事をさせ終わったところでした。一人の少年のお弁当を使って。彼は魚とパンを持っていてわたしがそれを祝福して、裂き、あなたがたが分配しました。」彼らがかごの中に手を入れる度に、パンと魚が増えていて、事実、すごくたくさんあったので、残りがあったほどでした。考えてみて下さい。これは実際に起こった事です。想像できますか？もし私が弟子の一人だったら、こう言うでしょう。「待って…「…何でここを離れなくちゃいけないんです？」「メガ・チャーチがここにある！」「ここに残りましょうよ。」想像できますか？もし私が弟子の一人だったら…人々は「あ～～」みたいな感じで…まず第一に彼らは腹ペコです。彼らは肉体的に食事を与えられているだけでなく、霊的にも、いのちの言葉、いのちのパンを 与えられています。弟子たちは歩き回っていて、人々は多分、彼らを見てこんな感じでしょう。「ああ、本当に本当にありがとうございます！」私はペテロを取り上げてみます。みんなペテロをいじりますから。可哀そうに。みんな天国に行ったらペテロに謝らねばならないと思います。でも、ペテロはこんな感じです。「あー、ありがとう。どうもありがとう。」彼らはちょうど終わったところです。すぐ後にです。なぜなら、イエスは群衆を解散させねばならなかったとありますから。つまり、イエスは、彼らにとって非常に危険であったかもしれない状況から、彼らを急いで引き抜いています。どういう意味？高ぶり(プライド)の危険です。イエスは弟子たちをもっと大きな試練、もっと大きな誘惑から守られていたのです。彼らがそこに留まっていたら、非常に危険なことになっていたでしょう。なぜなら、高ぶりは常に倒れに先立つからです。(箴言16:18 参照)そして神は絶対に私たちが倒れるのに加担されません。それは出来ないのです。神は決し

て私たちが誘惑されません。神は決して、私たちが失敗するべく 仕組まれているような状況に、私たちを置かれることはありません。神はいつも、私たちの人生において、私たちの従順を促すような 環境を作り出されます。神は決して私たちが 危険な立場に陥れられません。もしも弟子たちがそこに留まっていたら、とても悲惨な結末になっていたでしょう。神はそれを知っておられました。だから、急がねばならなかったのです。「これが試練であるのは分かっている。でも、わたしがあなたがたを何から守ったかを あなたがたが知りさえすれば…」言っておきますが、私の人生でも… 振り返ってみたら…終わってしまえば良く見えますと言いますから…振り返って思い返すと、愛に満ちた神の御手があなたを あなた自身から守っておられたのが分かります。あなたの高ぶりから。高ぶる傾向から。

では、3つ目で、これは私のお気に入りの一つです。私の大好きな聖句、創世記 50 章 20 節です。神は、あなたを用いられようとしている事のために、あなたを準備しておられるのかもしれませんが。聖書の中で、神によって大きく用いられた 男性たち、女性たちすべての中で、私にとって一番際立っているのは、ヨセフです。と言うのも、神に見捨てられ、置き去りにされたと感じても当然な人がいたとしたら、それはヨセフです。彼がおよそ 17 年間という期間の中で 経験したことを全部考えてみて下さい。17 年間ですよ。まずは、彼がとっても愛していた兄弟たちが、彼を置き去りにして、彼を奴隷として売ります。そして彼はエジプトに到着すると、強姦の罪を着せられます。ぬれぎぬを着せられて、投獄されるんです。そして彼は裏切られ、悲惨な状態のまま見捨てられます。それからその間にある事も含めて、彼はこれらの事を 17 年間経験するんです。神よ。何をしておられるのですか？ 何故これを許されているのですか？「ああ、あなたが知ってさえいたら…教えられないけど、今に分かるよ。」「わたしはあなたを整えているのだ。」「あなたには想像もつかない。」「わたしはあなたに あれらの夢を与えただろう。」「ヨセフよ、あの夢を覚えているだろう。お前のお父さんとお母さんでも叱ったやつだ。」ヨセフの兄弟たちは、ものすごく腹を立てて、「俺たちがお前の前にひれ伏すと言うのか？ このチビ！」僕はただ神が見せてくれた 夢の話をしてるだけだよ。神が私の人生に持っておられる この計画、目的、この召し

「つまり、こういう事なんだよ、ヨセフ。わたしがあなたを世界で 最も権力のある男にする前に、」当時に知られていた範囲の世界で、パロに次いで、ということですが。パロはエジプトで神と見なされていました。「あなたをそれほど力ある者にする前に、わたしはまずあなたを整えねばならない。」

「わたしは、まずあなたをその地位に備えて 整えることなく、ただあなたを その力ある地位に就けるわけにはいかない。」「だから、これらすべての事があなたの身に起こるのを許さねばならなかったのだ。」

「なぜなら、これらの事すべてにおいて、またそれらを通して、あなたは あなたに対するわたしの愛と忠実さを見ることになるからだ。あなたがこれらの事を経験しなかったら、絶対に知り得なかったような形で。」それで、ある人が言ったように、彼が落とし穴から頂点に移る時が来ると、高ぶりは全くありません。非常な謙虚さがあります。これについても、後ほどお話しします。それで、準備の過程が完全に終わっていたので、彼の兄弟たちが「これはヨセフだ」と 気づいた時、彼らに対するヨセフの応答は 次のようなものではありませんでした。「あなたたちは皆、まったくもって救いようのない人間だ！」その代わりに、創世記 50：20 で、ヨセフは彼の兄弟たちに言います。「あなたがたは、私に悪を計りました…」「…が、神は…」 聖書全体で私の一番好きな 2 語です。それは何もかも変えてしまうからです。

「が、神は…」あなたがたは確かに悪を計った。「(しかし、) 神はそれを、 良いことのための計らいとなさいました。それはきょうのようにして、多くの人々を生かしておくためでした。」ヨセフには、その地位に就いて、 その時点になって彼がした事を行なうことは 決して出来なかったはずで。神が、まずあ

の期間中に彼のことを整えていなかったならば、神がヨセフを用いようとされていた事のために。あなたは今、何かを経験している最中かもしれません。それは意味をなさないかもしれません。とにかく、これは、全く意味をなさない。この中から、良い事がどうして起こり得よう？ 私は約束を知ってるし、ローマ 8:28 も知ってる。暗記して、壁にも貼ってある。最近は壁じゃなくて、コンピュータか何かの「壁紙」です。それだってもう時代遅れですね。もっと注意しないと…その約束は知っています。

「神がすべてのことを働かせて益としてくださる…」それを暗唱できるし、色んな聖書訳のを言える。私はそれを良く知ってるし、力を込めて出来る。皆さん、お分かりですね。神がそれを働かせて益とするためには、神はご自分の目的を成し遂げなければなりません。それは神の御計画、神の目的の一部なのです。そして神はあなたに計画を持っておられます。そして、それは災いの計画ではないと エレミヤは言っています。(エレミヤ 29:11 参照) それはあなたを傷つけるためではなく、あなたを整えるためのものです。あなたを繁栄させるため、あなたに未来を与え、希望を与えるものです。神はあなたを何かとっても壮大で輝かしい事のために整えておられて、たとえ神があなたに言ったとしても、あなたはそれを信じないでしょう。それは信じ難いような事です。ヨセフがあつた穴の中に座っている時に、あなたが彼に言っていたとしたら…ぬれぎぬを着せられて、悲惨な状況のまま見捨てられていたヨセフに…あなたがヨセフにこう言っていたら「ほら、もう少ししたら、あなたはパロに次いで 最も力ある男になりますよ。」もし、誰かが 20 年前の西暦 2000 年に 私のところに来て いえ、15 年前の 2005 年にしましょう。その人がこう言ったとします。「もう少しですよ。神はあなたを整えているんですよ。牧師が望みうる限りの最高に素晴らしい教会であなたが説教壇の後ろに立つ特権が与えられる日が来ますよ牧師にとって夢のような 最も愛に満ちた教会です 2005 年にあなたが私にそう言っていたら、私はこう言ったでしょう。「ハハハハ…」お世辞笑いです。色んな種類の笑いがありますよね？ 機関銃笑いはははははは お世辞笑いが私の一番好きなやつです。ハハハハハ… 失礼にならないように、お義理で笑っておきます。それでいて、私が過去 15 年間を振り返ると、それは、神が私を整えて用いられるための 準備過程でした。それがどんなに困難であっても。そして確かに困難でした。

では、4 つ目です。神がそれを許しておられるのは、あなたをへりくだらせているからかもしれません。

あなたが完全に神に頼るように。パウロはコリントの人たちに手紙を書いて、 [第二コリント 12 章の 7 節](#)に始まって、こう言っています。

[第二コリント 12 章](#)

7 また、その啓示があまりにも素晴らしいからです。 [そのために私は、高ぶることのないようにと、…](#)」彼は、天に引き上げられたことについて 語っています。14 年前のことです。彼は誰にもその事を言ったことはありませんでした。そして今、14 年後に彼らにその話をする時でさえ、彼は第 3 人称でその事を語ります。天にまで引き上げられたこの体験について。そして、彼は言います。「それは私をすごく横柄にしていたかもしれない。…すごく自惚れて、すごく傲慢になって、極度に高ぶっていたかもしれない。」そこでパウロは神がこうされたと言います。「[肉体に一つのとげを与えられました。それは私が高ぶることのないように、私を打つための、サタンの使いです。](#)」彼は再びそう言います。「このことについては…」 私たちにはそれが何か分かりませんが、それは故意によることです。私がそう言うのは、もし私たちが具体的にこの肉体のとげが 何であるかを知っていたら、…そしてそれが私たちの人生にあるものでなく、私たちが経験しているものでなかったら、私たちはこれを簡単に片づけてしまうでしょうから。しかし、神がそれを総称的なものとし、私たちが空白を埋められるようにされたお陰で、そ

れは今、何であれ、あなたの肉体にあるとげに当てはまるのです。

8 このことについては、これを私から去らせてくださるようと、三度も主に願いました。

9 しかし、主は、『わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである』と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。

10 ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。」

うわあ。パウロ！あなたは本気でこう言ってるんですか？ あなたは実際に、困難や侮辱、迫害、弱さ、これらのもの全てに甘んじて、喜ぶのだと？ そうです。どうしてそれが可能なのか？ それは私が思い出さねばならない私の弱さと神の強さを思い出してくれるからです。私は何者であり、神がどういうお方であるかを思い出させてくれるからです。たぶん、もっと良い言い方をすれば、私がどういう者でないか、あるいは、私が自分で何者だと思っているかを。なぜなら、パウロもそうしかねないからです。そして彼は自覚しています。皆と同じように、パウロはこれについて得意になることも出来ました。そして彼は主に嘆願します。主よ、これを取り除いてください。これを取り除いてください。これを取り除いてください。すると神は言われます。そうしない方がいいのだ。もしそうしたら、それはあなた自身の危険となる。私がこれを許すことで、それはあなたをすっかり、全く、完全にわたしに頼らせ、依存させ続けるのだ。わたしの強さを求めて。あなたの弱さの内に...パウロは「私は誇る。私はそれを自慢する」と言っています。パウロさん、何を自慢するんですか？「私がどれほど弱いかな...」え、ちょっと待って、何？「そうです。はい。私は弱いのです。」イエスは言われました。「わたしを離れては、あなたがたは何もすることができない。」（ヨハネ 15:5）どんなものでしょう？履歴書に書くといいでしょう。冗談です。でも、それが現実なんです。神のお陰なのです。神の強さ、神の恵みは、私に十分なのです。教えて下さい。私自分が自身の弱さを知らずして、どうして神の強さを認識できるでしょう。もし私が自分の強さに頼っていたら？こんな風に想像してみてください。聖霊がこう言っています。「さて、わたしには何も出来ない。明らかに、あなたには出来るようだから。」「あなたにはわたしは必要ないみたいだから。」「あなたには聖霊の力は必要ない。あなたには神の力や強さは必要ない。」「なぜなら、明らかにあなたは助けを必要としないようだから。」神は決して...私は自分の人生で神が何度も...私は神がものすごく愛を持って、ものすごく忍耐強く、待っておられるのを想像します。やれやれ。いいだろう。わたしはここで待ってるよ。あなたに用意が出来たら...あんまり遅くなるなよ。なぜなら...その必要はないんだから。わたしはただ待っているよ。私ときたら、「いいえ、神さま。私は大丈夫です。」「つまるどころ、私がどういう者か、ご存知でしょう。」ある話を思い出しました。実は、妻が思い出させてくれたんです。何年も前、本土での事ですが、妻と一緒に働いていた客室乗務員がもう仕事にうんざりしてしまっていました。彼女はファーストクラスで働いていたんですが、ある乗客がいて、彼女がその乗客を座席に案内して、何か必要なものはないかと尋ねると、その乗客は高慢な、のぼせ上がった顔つきで「私が誰か知っているかい？」彼女は啞然として、「すみません。私はあなたを存じ上げませんが、だれかあなたを知っている人を見つめますよ。」彼の表情はサイコーでした。自分が何者だと思ってるんでしょう。

5 つ目。これは大きいです。神はその痛みと苦しみを、他の人たちを慰めるために用いておられるのかもしれない。第二コリント 1:3-7 で、パウロは書いています。

第二コリント 1

3 私たちの主イエス・キリストの父なる神、慈愛の父、すべての慰めの神がほめたたえられますように。4 神は、どのような苦しみのときにも、 私たちを慰めてくださいます。こうして、 私たちも、自分自身が 神から受ける慰めによって、 どのような苦しみの中にいる人をも 慰めることができるのです。

5 それは、 私たちにキリストの苦難があふれているように、慰めもまたキリストによって あふれているからです。

6 もし私たちが苦しみに会うなら、 それはあなたがたの慰めと救いのためです。もし私たちが慰めを受けると、 それもあなたがたの慰めのためで、その慰めは、私たちが受けている苦難と 同じ苦難に耐え抜く力をあなたがたに与えるのです。

次にこれについてお話しします。

7 私たちがあなたがたについて抱いている望みは、 動くことはありません。なぜなら、あなたがたが 私たちと苦しみをともにしているように、慰めをもともにしていることを、 私たちは知っているからです。パウロはここで何と言っているのでしょうか？ 彼が言っているのは、時に、 あなたが神の慰め、聖霊の慰めを受ける側にいる時 あなたがこの全く困難で辛い時期を 経験していて、あなたがその受け手であるのは、それは、もしかしたら、将来、 神が別の人の人生において あなたを用いられるからかもしれません。あなたは自分がそれを経験していた時に 受けた慰めで、同じようにこれを経験している別の人を慰めることが出来るのです。私は娘のノエルが死んだ時のことを 思います。どんな親でも最も恐れることが起こる。 ヨブだったらこんな風に言うでしょう。それは、どんな親にとっても 最悪の悪夢です。我が子の死を想像しただけで…これは自然ではありません。親は子を埋葬しなくてよいはずで、子が親を葬るのです。2006年にノエルが亡くなります。私はその時のことを覚えています。それは言葉にできない痛みです。その痛みはとても徹底していて、 とても深いものでした。そして…私には知る由もなかったのですが、神は私と妻を用いて、同じく子どもを失くした人たちの人生に 語られていくのでした。今でも…ノエルは、そうですね…今年の12月28日で14歳になっていたはずで、しかし、何人の大切な人たちを、私たちは支援し、励まし、慰めてくれることが出来たでしょう。なぜなら、私たちがその権利を得たからです。私たちがその同じ杯から飲んだから。彼らが今、飲んでいるものを。私たちが彼らにこう言えるのです。「神はあなたにこれを乗り越えさせて下さるから。」「今はそんな風に思えないのは分かりますよ。」「今は熱い涙が出て、目がチリチリ痛んでいるのを私は知っていますよ。」「私にはその涙が分かります。」「夕暮れには涙が宿っても、朝明けには喜びの叫びがある。」（詩篇 30:5）

あなたは、彼らが今経験している事をあなたが経験していた時にあなたが神から受けた慰めをもって、彼らを慰めることが出来るのです。申し上げますが、このような高揚感には他にはありません。そのような形で誰かを支援し、慰めることの出来る高揚感のようなものは、それは本当は特権です。私はもう二度とあれを経験したくはありませんが、同時に、それは何にも代えられません。

6 つ目。神が逆境や辛さを許しておられるのは、あなたを霊的に成熟させたいからかもしれません。あなたが忍耐を身につけるように。これはヤコブ第 1 章 2-4 節です。以前にも言ったことがありますけど、もう一度言わせてください。私は神の御言葉の中の この箇所が、大嫌いです。私はイヤなんです。聖化された意味において、嫌いなんです。だって、何と書いてあるか、聞いて下さい。ヤコブはこう言います。

ヤコブ第 1 章

2 私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。

マジで？ この上もない喜びと... これは誤訳に違いない。きっと原語では、多分こんな感じだろう。それをこの上もない”地獄”だと思いなさい。さまざまな試練に会うとき... そうは言っていません！この上もない喜びと思いなさい。一体何を考えているんですか？ そんなのそもそも どうしたら出来るんでしょう？ この試練、困難、苦難、痛み、苦しみに会っている時、それをこの上もない喜びと思うなんて？ ああ、聞いてくれて良かった。それは3節と4節です。こうするんです。それをこの上もない喜びと思えるのは、

信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは”知っている”からです。

”知っている”がキーワードです。ここで止まりましょう。言い換えれば、試練を乗り越えるためにあなたに必要な忍耐は、試練を経験することによって得られるのです。つまり、私はどうやって忍耐を得るのか？ ああ、試練を経験することによって。そんなのイヤです。私は試練を経験し始める前に、忍耐が欲しいです。試練に会う時、忍耐があるように。そうは行かないのです。あなたは試練に会う時に、忍耐が欲しいのですか。近道はありません。あなたが得ることの出来る忍耐は、試練を通してのみ生じるのです。そして4節は、もっとひどくなります。「その忍耐を完全に働かせなさい。」これもキーワードです。そこに暗示されているのは、私たちが忍耐を完全に働かせない、ということです。私たちはそれに抵抗します。それを働かせる代わりに、忍耐を働かせなさい。抵抗はやめなさい。「その忍耐を完全に働かせなさい。」そうした方があなたのためです。その理由はこれです。

「そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。」あなたは試練に会っています。主よ。私にこれを乗り越らせて下さい。「乗り越らせるよ。わたしにそうさせなさい。」そうなんですけど、主よ、これは本当に辛いんです。「分かっている。」主よ、私には我慢強さと忍耐力が必要です。「分かっているよ。今、そうしてるんだ！わたしにそうさせなさい！」主よ、あなたは分かっておられません。私は試練の中にあるんです。「わたしはあなたが試練の中にいるのを知っている。わたしがそれを許したんだ。」主よ、私には力がありません。「わたしが今やっているのはそれだ。あなたに力を与えているんだ。」でも、違った形で力をもらえませんか？「ダメだ。そうは行かないのだ。わたしはあなたに力を与え、忍耐を与え、我慢強さを与えようとしているんだ。」「試練を通して。そういうやり方なのだ。」ああ、忍耐の錠剤が飲めたらいいのになと思います。だったら、いいですよ。この錠剤を飲むだけ。20分ほどあれば血流に届きます。バカバカしい例えですみません。

最後のものです。これは大事です。全部大事なんですが、これもまた私のお気に入りの一つです。神がっらい時期を許されているのは、あなたが無力であることをあなたに示すためかもしれません。あなたが助けを求めて神を呼び求めるために。歴代誌第二 20 章 10 - 15 節です。この話はしたことがあります、それは全く、驚くような記述で、不可能な状況の一つを描いています。どうしようもない。どうにもならない。ヨシャパテは、自分に敵対して攻めて来ようとしている 同盟軍に対し、そのような状況にあります。アモン人、モアブ人、 およびセイル山の人々の連合です。彼は神に呼ばわって、神に思い出してもらおうとさえしています。神には思い出させてもらう必要はないのですが、こんな感じです。私たちがエジプトから出てきた時、あなたは私たちに 彼らの地に侵入すると言われました。私たちは迂回せねばならず、彼らを征服せず、根絶やしにしませんでした。彼らが私たちにどう報いているか、ご覧になってますか？彼らはこうやって私たちに報いるのですか？

歴代誌第二 20 章

10 彼らは、あなたが私たちに得させてくださったあなたの所有地から 私たちを追い払おうとして来ました。私たちの神よ。あなたは彼らを さばいてくださらないのですか。

それから彼は次のように言います。 12 節です。

12 私たちに立ち向かって来た このおびただしい大軍に当たる力は、 私たちにはありません。私たちとしては、 どうすればよいか分かりません。ただ、あなたに私たちの目を注ぐのみです。

今何と言った？

「おい、ヨシャパテよ。あなたは今、 どうしてよいか分からないと言ったか？」 一ええ。「あなたは今、あなたに立ち向かって来た このおびただしい大軍に当たる力は、 あなたにはないと言ったか？」 一ええ。「あなたは今、 あなたがわたしに目を注いでいると言ったか？」 「あなたの無力さの中で？」 「あなたは どうすればよいか分からなくて、わたしに頼り、わたしに目を注いで、わたしに目を向けていると？」

「あなたはわたしに呼ばわっていると？」 そうです「ああ、ヨシャパテよ。 わたしの耳に心地よい響きだ。」 「それこそが、 わたしが聞かねばならなかった事だ。」 「よろしい！」 「決まりだ！」 どういう意味ですか？ 「ああ、ほっほっほっ。 あなたはすべて言うべき事を言った。」 「あなたには力がないと？ わたしは全能だ。」 「あなたは無力だと？ 苦難の日には、 わたしがあなたを助けよう。」 「あなたは どうすればよいか分からないと？ わたしは どうすればよいか分かる。 そしてわたしはそれをしよう。」 「わたしはあなたのために、 そしてあなたに代わって、それをしよう。」

13 ユダの人々は全員主の前に立っていた。 彼らの幼子たち、妻たち、子どもたちも共にいた。ときに、 主の霊が集団の中で、 アサフ族の出のレビ人ヤハジエルの上に臨んだ。 彼はマタヌヤの子エイエルの子ベナヤの子ゼカリヤの子である。

これは面白いですよ。 これは預言者ではなくて、祭司です。神は祭司を通して語られようとしています。彼は次のように言いました。ヨシャパテ王よ。 主はあなたにこう仰せられます。あなたは力がなくて、自分でどうすることも出来なくて、 どうしてよいか分からず、 わたしに目を注いでいるから、

15 『ユダのすべての人々とエルサレムの住民 およびヨシャパテ王よ。よく聞きなさい。 主はあなたがたにこう仰せられます。』

用意はいいですか？ 行きますよ。

『「あなたがたはこのおびただしい大軍のゆえに 恐れてはならない。 気落ちしてはならない。この戦いはあなたがたの戦いではなく、 神の戦いであるから。」』

この戦いはあなたがたの戦いではない。 今回は！いつもそうではありません。 イスラエルが戦わねばならなかった 戦いがたくさんあります。でも、これは違う。「わたしが引き受ける。」 「この戦いはわたしのものだ。 それで、あなたは 何を するか知っているか？」 —いいえ、主よ、何でしょう？ 「あなたにはただそこに立っててもらう。 見栄えよく。」 「明日、あなたがたは出て行って、あなたがたはわたしを賛美しなさい。 賛美の歌を歌って。」 あら、それは何だか面白い戦略ですね。 エリコの戦いみたいです。

「あなたは矢も何も放たなくてよい。 ただ周りを行進して...」 面白い進軍命令ですね。「さあ、わたしを見ていなさい。」 「わたしが何を するか、見ていなさい。あなたのために、あなたに代わって。」 「これはわたしの戦いだ。」 「わたしがこの戦いを戦って、 あなたのためにこれに勝利する。」 そして神はまさにそうされました。 全く絶望的だったのに。 話の要点は何かと言うと、時に神は、 私たちには不可能だという所まで 私たちを連れて行くことが必要だと見なされます。 望みはない。 私たちは力がなく、望みがなく、自分でどうしようもできない。 私たちは どうしてよいか分からない。 そして、その時になってやっと...

これが真実ですよ？ 私たちが主に向かって、「主よ。これは不可能です」と言うのは そういう時ですよ？ まるで神がこう言われるみたいです。「わたしには不可能な事も出来るよ。」主よ、私には出来ません。「ああ、わたしにやらせなさい。」「わたしにやらせて。」主よ、どうしていいか分かりません。

「わたしには分かる。分かるんだ。わたしにやらせてくれるかい？」私が思うに、時々、それがまだ私たちに可能な間は、神には不可能です。神は手を出されません。またしても、神は私たちがそこに到達するのをただ待っておられるようなものです。私たちは自らの限界に達して、「主よ。 どうにも道はありません。」それに対し、主は答えられます。「ある。」「わたしの道だ。 わたしに任せなさい。」締めくくります。私は個人的にこう信じています。神はこの現状の世界的危機を利用して、大勢の人々をご自分のもとに引き寄せ、自分たちの限界を自覚させようと しておられます。彼らが神に目を向けるように。聞いて下さい。言ってみれば、私たちには必ずしも 見えないかもしれませんが、神はやっておられるのです。神だけに出来るやり方で。私は、多くの人々が、唯一の希望として、神に目を向けつつあると信じています。日を追うごとに、速やかに 消え去りかけているこの世界にあって。そして、その理由は 実際には そうなっているように、 この世での生活がますますひどくなっていくと、それには、この本
当に望ましい効果があるのです。それは私たちにこの命を手放させ、永遠のいのちを掴ませます。だから神は、困難が見舞うのを許されるのです。お立ち下さい。お祈りします。

主よ、感謝します。主よ。私は終わりに、 今夜ここにいらっしゃるか、 オンラインで見ている方で、とてもつらい時期を通らされていて、状況がすごく絶望的に思える方のために祈ります。主よ、特に、完全な絶望の中にある方のために、自殺さえ考えている方に、主よ、どうか、その画面を通して手を伸ばし、彼らの心に達し、あなただけに与えることの出来るあの望み、あなただけに与えることの出来るあの平安を 彼らに与えて下さい。主よ、あなたに感謝します。どんなに状況が悪くなっても、 悪く思っても、現に悪くても、それは、あなたがどれほど慈しみ深いかを 変えることは出来ません。主よ、ありがとうございます。あなたの御約束と、真理に感謝します。あなたは私たちを最後まで 助けて下さいますから。あなたは決して私たちを見捨てたり、 置き去りにしたり、 失望させたりすることはなさいません。あなたは私たちを愛してくださっているから。主よ、感謝します。イエスの御名において。アーメン

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe47-525Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii 筆記 hukuinn7